

1983.5.29

性が海外に出にくいのは、例の観光�井で入って働く人の問題があるからである。観光�井で入国した女性を一人や所謂「キーセンハウス」といふのが、日本人で働くが栗鍊な人間いは、自分で自分とつてあることを悟り、そのことで足をひくられるとはあるのに、韓国伝統舞踊を観る機会もとづいてとき、「そんなど足をひくられるとは考えにくいたった。

免に角、同様までやきもきしてやうと来日が決まった。神戸公演は四月三日午後。学生セニタリルは天井が低いのが難だが、平場の人々多くが入ること私たちは決めた。

私は、これまでに平場、万寿山美術館や、金剛山歌劇団など何度も朝鮮の舞踊を見たものの、そればかりはかなりシヨーハ化されたもので衣裳も舞台衣裳のするものが用いられていた。ただ一度テレホで僧舞か何かを見たが、その舞は妖艶なものとは違う正当派の舞踊である。

昭深氏の主として巫俗舞踊系のもので、衣裳もシニアル。一玉氏のあでやかな宮廷舞踊のもののが多かった。動きにつれてゆれる衣裳の大半が美しさ、目つきの鋭さに引きつけられる。



(展場)

韓国で公演するとさには敵人の軍隊をひきつけるもうだか、日本ではさういうわけにもいかず、テープ伴奏にまつてしまつてこと、舞台や照明がなかなかうまく準備出来ないことにひとまずマイナス面も多きめた。それに彼女たちは若手だし、二年からもつともつと研鑽三種んでいくべき人たちの公演を行なつてます、バスホートやセイサ科出身で、若手の伝統舞踊継承者である。彼女たちはとにかく、二の舞台を見にいらして、それだけで朝鮮伝統舞踊の「ほんの」を見たと、言つてしまつて、しかも出来ないだろう。しかし、今回の公演に多くの人が集つたのは、朝鮮の文化をきちんと外國の文化としてどう見る層が増えているからだと思われる。

近年、韓国では、伝統的の人形劇、仮面劇、舞踊をはじめとして、様々な伝統芸能に興味を持つ者たち、その復興をはかる若者が増えているという。次雨景氏は彼らひとりの存在でもある。八十年代に入つてもう一度自分たちの文化を見直し、足りるとこをつめる二の韓国での動き。私は立ち、政治的・経済的な面からむき朝鮮と接するのではなく、もつと多様な方向で朝鮮をどうする機會を増やしたいものである。

1983.5.29

むくげ通信78号 (25)

## 随想 沈雨景人形劇場 ・金明珠・金一玉韓國伝統舞踊・

正用休みを利用して韓国へ出かけていた友達が、嬉しいお土産を持って帰ってきた。それは一昨年、学生セニタリで人形劇と踊りの公演を行なったソウルアンサンブルの主催者、沈雨景氏と踊りキムヒトリ、金明珠さんの再来日というニュースだった。今度も是非、神戸で公演をと思い、早速準備にとりかかった。

まず、沈氏の公演「沈雨景人形劇場」は二十九日から三日間、神戸、大阪、京都で行なわれた。一昨年のソウルアンサンブルの公演とは違つて、今回は沈氏ひとり人形劇で、四つの場からなる公演には、朝鮮の伝統的な人形劇に登場する人形をはじめとして、指人形、あやつり人形として沈氏の身体に巻きつけられた人形など、全て沈氏の手づくりの、様々に人形が使われる。

死者的同士の婚礼では朝鮮戦争や三年前の光州戦争は現在の朝鮮半島を想起させる。永平はラジオのコマーシャルは、日本と技術提携してつくった東洋の名を大声で叫ぶ。「美しいソウルで暑そう」とうなづけるソウルは本当に美しい。人々はイスラエル音楽にてうかれていられるのだろうか。息呑んで見つめ、見終るといつと疲れがまた。

もうひとつ公演、金明珠・金一玉韓國伝統舞踊」は四月二日から八日まで、今度は広島・神戸・大阪・名古屋で行なわれた。金明珠・金一玉氏は、共にソウルの梨花女子大韓國舞踊科出身で、若手の伝統舞踊継承者である。彼女たちはとにかく、二の舞台を見にいらして、やせや取扱の件で問題があつた。正式の招請状やなりとバスホートもせやもりないというのだ。韓国から外國へ出たくないといふ理由のひとつには外債の問題もあるが、特に若ハ独身女